

「聖書的 7 つの賛美(七賛)」の教えの 4 つの問題点の要約(ver.12) (2023 / 03 / 11)

私がこの教えを最初に聞いたのは 1994 年です。この教えにはいろいろ派生があるので、この説明が全ての人が語る聖書的七つの賛美の教え（略称「七賛」）に当てはまるわけではありません。ただ典型的な例を載せます。

（1）そもそもほとんどが賛美する(ほめたたえる)と訳されていない

元々、この教えの醍醐味は普通に聖書を読んでも「賛美する（たたえる）」としか読み取れないが、原語では実は多くの言葉が使われているというもののなのでしょう。しかし実際にはそうでない場合が多いです。テヒラとハラルそしてヤダの三つを除けば 419 回中 2 回(新改訳の場合)NAS では 4 回、KJV で 7 回しかそのように訳されてません。

（2）全体的にこじつけの教えという印象がある

賛美の中で叫んだり手を上げたりひざまづくことは聖書的な手段ですし、それを教えることはよいことです。しかし、その教えを権威づけるために「ヘブライ語では・・・」と言って、こじつけているような印象を受けます。

（3）第一の意味を第一としていない

「この言葉の意味は～です。」と言いながら、実際にはそれよりも優先されるべき意味を無視しています。バラク《1288. barak 330 回》は「ひざまづく」と教えるが、主要な意味は祝福する。「神を～」という場合は「神をほめたたえる」。ただし英語聖書では blessed be～なので、ほとんど(330 回中 316 回)「祝福する」と翻訳。
★確かに現代語(ברך)の意味はひざですが、聖書では「ひざまづく」と訳されているのはどの聖書でも 3 回のみ。しかも七賛では伝言ゲームのように詩篇 95:6 を紹介。ここにはひざまづく系の単語が他に 2 つもあるにも関わらず。「ひざまづく」を教えなければ(7812. shachah.172 回)ひざまづく、礼拝する」という単語のほうがよいでしょう。
▼praise と訳されているのは(NAS)(KJV)で 0 回、ただし新改訳で 72 回「ほめたたえる」「ほむべき」と訳される。ひざまづくは新改訳、NAS、KJV とも 3 回のみ、創世記 24:11(ただしラクダ) 2 歴代誌 6:13 詩篇 95:6。

ヤダ《3034. yadah 114 回》の原語のもともとの意味は「投げる」です。聖書では(NAS)の場合「感謝する 67 回、ほめたたえる 19 回、告白する 16 回」と翻訳されています。

★しかし 7 つの賛美の教えでは、「手を挙げる」がほぼ教えのすべてです。

もし別の意味があると教えたいなら「感謝する」「告白する」のほうがよいでしょう。

☆(解説)それでもヤダは手と関係があります。元々の形は「ヨッド」という手を意味する単語だからです。ですから、「投げる」とあわせて「手を上げる」と深読みすることもできますが第一のものではありません。

ヤダの意味は感謝なのでその手は受け取る手であり、応答する手とも言えます。イザヤ 56:5 の「ヤド・バシエム」のヤドは「分け前」(新改訳第 3 版)と訳されています。そうであるなら「いけにえとして手を上げ続ける賛美しかし主から受け取るものではない。(つまり受けることを期待しない?)」という派生形の教えはやりすぎだと思います。

▼「praise」と訳されているのは(KJV)で 52 回、(NAS)で 16 回。「ほめたたえる」を新改訳で 35 回

トダ《8426. todah 32 回》はヤダの派生の名詞形なので同様に第一の意味は「感謝」で「告白」とも訳される。感謝の歌(ネヘ 12:27)、感謝のいけにえ(2 歴代誌 33:16)と訳されることもあるが意識と思う。

ただし KJV では praise と訳されることもある(詩篇 50:23)、そのことから 7 つの賛美の教えの著者は KJV を使用？

★ 7 つの賛美の教えでは、感謝についても語っているが、ヤダと同様に手を上げるとされています。

シャバク。《7623. shabach 11 回》元々の意味は「落ち着かせる、打つ」(聖書には「静める、誇ると訳出される)。

★「誇る」という意味があるので、七賛で教える「大きな声、命じる、勝利、栄光」あたりはまだ良いのですが、そこから発展した教えの中に「静かにいることの反対」とあるのはやりすぎだと思います。

▼「賛美」と訳されているのは新改訳で 3 回(詩篇 63:3、伝道者 8:15、詩篇 117:1 ほめ歌え)。(KJV)では(詩篇 63:3、詩篇 117:1、詩篇 145:4、詩篇 147:12。NAS では詩篇 145:4 のみ。 1.4.1

ザマール《2167. zamar 46 回》は聖書中ほとんどは「歌う」と訳され、「楽器を演奏する」はありません。

★ 7 つの賛美の教えでは「楽器を演奏する」あるいは「楽器と共に歌う」です。おそらく前者が教えの原型ですが、間違いに気づいた人が「歌う」を含めるために「楽器と共に歌う」と修正したバージョンもあります。

☆(解説)同じ語幹の(2168 zamar 3 回)の意味が剪定、刈り込みなので「指で打つ」(演奏する)こととまったく根拠がないわけではありません。しかし「歌う」を飛び越えて「楽器演奏」と教えることはやりすぎです。

（4）もともと無い意味(たとえ意味があったとしても掘り下げねば出てこない意味)を教えている

テヒラ《8416. tehillah 57 回》の意味は賛美や美の歌を意味する名詞形です。(語源は halalu ハラル)

★ 7 賛美などで「新しい歌」「霊の賛美」と教えますが根拠は不明です。詩篇はヘブライ語でテヒリームですので詩篇そのものがテヒラの集合体であることがわかります。つまり、テヒラは単に「賛美」と理解したほうが自然です。

▼「賛美 praise」と訳されているのは 57 回(NAS、KJV)、新改訳では多くは「ほめ歌を歌う」と翻訳されています。